

先日、大阪城ホールの近くにあるいずみホールで、コンサート特別聖書講演会をやりました。皆様の中にも来てくださった方がおられると思いますが、ウィーンから緒方美知子さんをお招きして、素晴らしい歌を聞く事ができました。彼女はこのレディースタイムにも来られて、ミニコンサートがあって、私は一番後ろの席で聞いていたけど良かったですね。「ふるさと」を皆で合唱した時、皆さんスウィングしている。「これ、のってるな。いいな」と思って見てました。

いずみホールでは、出演者たちは舞台に立つ前に控室に行きます。楽屋。「楽しい部屋」と書いて楽屋。何で楽屋かというと、楽（らく）するための部屋。

いずみホールは800人くらい入る所ですが、1000人・2000人・大勢の人々の目の前に立つ時には、どんなプロフェッショナルでもちょっと緊張する。朝起きた時からずっと緊張しつ放しだと、一番力を発揮しないといけない時に、いいパフォーマンスが出来ないですよね。だから「人々の前に立つ直前までは、リラックスの部屋でゆっくりなさってください。」これが楽屋。

リラックスはすごく大事な事だと思います。

プロでも美空ひばりでも矢沢永吉でも、あんなロックな人でもガクガクすると言われていますが、皆さんはどうですか？ このように前に立つというのではなくても、人がたくさんいる部屋に入るだけで、何か、ちょっとしんどいという方がいらっしやいませんか？

人格あるものの前に立つというのは、ある意味で何かプレッシャーを受けるものなんです。

私は月曜日まで広島に行ってきました。いずみホールで最初にブラスバンドあったでしょ。あのブラスバンドを提供した集会に夫婦で招かれて、聖書のお話をしました。

2年前から私と交流のある青年がいて、昨年一緒に「イエス・キリストを信じます」というお祈りをしたのですが、この子が（今大学1年生ですが）メチャクチャに緊張してたんです。ものすごい緊張しい。私が質問する事に答えてくれるんですけど、まず目を合わせる事ができません。顔下向けて。そして何か話すんですけど、声が震えてる。第3者が見たら、私が恐喝してるみたい。

優しい声で「どうですか？」と聞くんですけど「いや、あの、あの…むにやむにや…」

「ちょっと、聞こえないんですけど…。」「すみません。僕、あの、聞こえなくて…すみません。」うつむいて。そんなに緊張してたら疲れるやろと思って「君、人と話したら疲れるやろ？」と聞いたら、「疲れるに決まっています…。」「どんな人に疲れるの?」「僕は全ての人間に対して疲れます」と言ったんですよ。

いや、そうじゃない。「全人類に対して緊張します」と言ったんですよ。

人類に緊張?! ちょっと聞いてみたいと思って。「私と話している時の緊張度を10とすると、この2人と話するのはどれくらい?」この2人というのは彼と同世代の若者で、2年間毎週毎週1対1で、土曜日はAさん、日曜日はBさんと、新約聖書と旧約聖書を順々に学んでいるんです。パートナーで聖書の勉強をしている、ずっと一緒の人たち。そしたら「20」と。「え、そうなん? 勝った!」と思って。

彼の高校時代の担任がクリスチャン。とても綺麗な女の先生で、彼女に案内されて広島の集会に来るようになったんですが、「その先生に対する緊張度は?」「70。」という事は、彼の心の中で、私は全人類のほぼ頂点に位置するくらい安心感・平安・落ち着きを提供している存在なのか!

「他にどういう人なら緊張しない?」「僕、高齢者には緊張しないんです。」

もうね、すぐに返せなかったです、私。頭の中が真っ白になって。結局、仲間と思われてなかった。既にお年寄りの一部に数えられていたという。確かに高齢の方が、そんな叱り飛ばしたりする事はない。

彼が緊張するのは元気がある人・威圧感を与える人・勢いのある人・権威のある人・何かパワーを持っている人。対人関係で、とても酷い目に遭って来たんです。

人生で受ける色んな苦難の中で、一番大きなものは、多分、対人関係じゃないですか?

仕事が辛いという場合、大抵、仕事の中での対人関係が辛い、という事じゃないですかね。

学校嫌いというのは、学ぶ事そのものが嫌いというよりも、学校生活での対人関係が辛かったんじゃないですか? 恐らく人生の問題の大きなものは、人から受けるプレッシャーや横やりや、色々水を差されたり、辛い目に遭ったり、そういう事が確かにあると思います。

人間の中でも圧倒的な人・能力がすごすぎる人・立派すぎる人、別に攻撃的でなかったとしても、例えば、あまりにも人の心を読める人…。

僕の友人に精神科ドクターのクリスチャンがいます。初めて会った時、彼は全く無防備に色々話してくれるんですが、私は探られるんちゃうかと思って「悟られまい。俺の本性、見せへんぞ」と、ものすごくこちなかつた事、覚えてますねん。

人の心が見えすぎる人・賢すぎる人・成功しすぎてる人・強すぎる人・キラキラ輝いている人というのは、心の中に何かよどんだものや薄暗いものを持っている人には、居心地悪いんじゃないですかね。

人間でもそうなら、生ける真の神様・この世界をお造りになった真の創造主なる神様は、この方ほど勢いづいている方はいないし、賢い方はないし、人の心の奥底にあるものを全てご存知の方はない。その神様の前に、一人ひとり、心が裸の状態立つ時が必ず来るといいます。だから恐れる。

聖書が言う神は、何度も説明しているように、①創造主。人が作った神ではなく、人をお造りになった方。あなたの作者。あなただけでなく、この大きな全宇宙を指のわざでお造りになった。

宇宙はでかい。という表現で小さくなったね、今。僕らが考えている「でかい」、どれくらいですか? 東京ドーム何十個、そんなんちゃいますよ。

私たちが住んでいる地球は太陽系に存在しています。太陽系は惑星が太陽の周りを回っている。太陽サイズの星が2000億集まったのが銀河系宇宙。

この銀河系宇宙が何十も集まっているのが銀河群。何百も集まったのを銀河団。

銀河団が何十個も集まったのが超銀河団。これが何十個も集まったのを銀河フィラメント。

分かる? 途中から「何か言うてはるわ。今日は興奮してるわ」みたいな。メチャでかい。それを神は指のわざだと。そんな大きな宇宙を考えただけで、何か怖い感じがするし、宇宙の中で、天の川銀河なんか点みたいなものだし、地球の、北半球の、日本の、本州の、大阪の、東住吉区、北田辺駅前。なんやそれと。「そこにいる私に、神が目を留めておられるとは信じられない」と、ある方は言いました。

ところが、水溜りの泥水をスポイトで吸い取って、シャーレに載せて顕微鏡で覗くと、人間の目には見えていない微生物がうようよ生きている。

大きすぎるものを見たら、小さな私が神に覚えられているとは信じられない。

だけど、目に見えないほどの小さなもの一つひとつが命を宿して、見事に設計され、造られている事を考えたら、神は小さなものにも目を留められるほど偉大な方。

②愛。創造主は私たちを愛しています。なぜそれが分かるか？ もし神様があなたを愛するつもりがないなら、初めからあなたを造ってません。

人間でも嫌な物をわざわざ部屋の中に入れない。お気に入りの物でいっぱいではないですか？ お気に入りだけど無い物はお金くらい。ぬいぐるみが好きな人はぬいぐるみばかり。コーヒー好きな人はコーヒーばかり。本好きな人は本ばかり。私の家、本すごいよ。本の上を歩く。それは整理してないだけの話やけど。何でそんなに本持っているの？ 好きなんです。愛しちゃってる。

実際出版してみると分かりますが、本を書くの大変。なんぼ完璧に書いたと思っても、誤字脱字絶対に出て来る。だから、本ほど安い物はないと思います。僕の本、あそこに売ってるんで良かったら。

③正義。同時に神は義なる神。これは悪を憎むという性質。義とは罪を憎むという性質。不正を憎む。この中で罪を犯した事がない・不正を行った事がない・嘘をついた事がないという人は1人もいないでしょう。神様は私たちを愛していますが、同時に義なる神で、不正を・罪を・悪を憎む方です。

この正義の神がどこかにおられるという事を、私たちは魂で本能的に知っているの、死んで神の前に裸の心の状態で立つ事を予期した時に恐れが出て来るのです。

聖書は、罪と死に恐れおののいている人間に、勇気と平安と慰めを与えるために神様が遣わしてくださったイエス・キリストと、この方が完成してくださった救いを告げる書物です。

そこで、神聖な神に喜んで飛びついて行く事が出来るように神様が準備してくださった、その準備とは何か、罪を完全に打ち消す力とは何かを、今日一緒に考えてみたいと思います。

ヘブル 9:22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。

血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。

律法は旧約聖書と考えていいです。旧約聖書全体が繰り返し述べている事は、すべてのものは血によってきよめられる。血によってとは血を流す事。死ぬという事。聖書では血は命とイコールです。

なので、血を流すは命を流す。つまり、誰かが死んでくれる事によって罪は清められる。

私以外の誰かが命を流して死んでくださる事によって、私の罪が清められる。

血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。

罪が赦される事が、なぜ「罪が清められる」という表現になるのか？ 赦された人の罪は、神様の前に清められてどこにも見当たらない。痕跡がなく、見つける事が出来ないようにされるからです。

昔伺った話です。京都に私のクリスチャンの大先輩がおられて、すごいジェントルマンで書道の大家。書道の大家はたくさんおられるけど、この方が書いた字が一番好きです。この方の万年筆は、筆先が筆ペンみたい。いつも年賀状が来るのですが、もう達筆。この字があまりにも好きで、「こんな字になりたい」と思って、年賀状をお手本に字の練習をしているうちに下手になりました。

基礎が出来た上でくずすと綺麗ですが、いきなりくずすと何か違う。「これ、日本語かな」みたいな。

筆の達人ですが、この方が昔、西陣織の反物の絵を描いておられました。

京都なので色んな呉服屋さんがあって、何ととっても名産品・特産品は西陣織ですね。

西陣織が染色する前の真っ白の反物の時に、特殊な染料を使って筆で絵柄を描くんです。

それにまた特殊な染料で色を塗って、それを最終的な染料工場にお渡しして完成品が出来る。家で出来る仕事だからという事で、そのお仕事を一生懸命なさっていた。非常に緻密。達筆でないと「あ、行き過ぎた!」とか出来ないし、一発勝負ですよ。

ある時、畳の上に反物をサーっと広げて、いつものように描いていたのですが、すぐそばに飲みかけのオレンジジュースがあった。いつもだったらそんな不用意な事はしないのに、なぜかその時は半分くらい飲み差しで仕事やった。そしたら、肘がコップに当たって、こぼれたジュースがシャーっと広がって、反物がサーっと吸い込んでいった。「しまった!」西陣織ですよ、皆さん。

昔、ある方から西陣織のネクタイをプレゼントで頂いたんですが、ちょっと合わなかったんですよ。で、あるビジネスホテルで、それを鉢巻きにして準備してたら、差し入れ言うて、プレゼントしてくれた本人が来た。鉢巻き姿を見て「うわ! 君は物の価値が分からん奴や!」1本3万円。だから僕にそんな高い物、駄目ですよ。本当はネクタイとか嫌なんですよ。でも、着けようと思って。

とにかく西陣織の反物、絹なんです。すぐに水で叩いて、橙色を抜いて、洗って抜いて洗って抜いて、乾かして乾かして、何度も繰り返して、とうとう完全に抜き去る事ができた。そして絵付けをして、「納期ギリギリになりましたが」と染色工場に渡したのですが、すぐに電話がかかって来たそうです。「何しました?」って。「は?」反物がケロイド状態になっていると。

みかんにはクエン酸が入ってますね。みかんは酸性ですが、時々聞きますか? 果物はアルカリ性やて。みかんの化学的組成はクエン酸が入っているんで酸性。でも、体に入ったら化学反応でアルカリ性になる。人間の目視ではキレイに取れているけど、染料をまぶす工程で、クエン酸と染料が化学反応を起こして、キレイなところがブワッと火傷の痕のようになるんです。彼がメッセージで言っていました。「人の目に完璧に清めたと思っても、出るとこ出たら、もっとひどく明らかになる。」忘れられないメッセージ。今思い出しました。

しでかした罪を完全に清める消しゴムというか、その汚れ(けがれ)を完全に抜いて清めるものは一体あるのか? 自分で罪を犯したけど、自分がやった罪を自分の力で消す事は出来ない。そして、神聖な神様は罪をそのまま受け入れる事は出来ない。

先月、安倍譲二(あべ じょうじ/1937-2019)という作家が亡くなりましたね。安倍譲二さん、ご存じの方? ありがとうございます。今手を上げた方は、一定の年齢以上の方ですよ。上げてない方は最近の方。この人は直木賞作家でベストセラー作家です。お父さんは東京帝国大学工学部で、同期が夏目漱石と正岡子規。造船技師として世界中回って行く。彼は4人兄弟の末っ子で甘やかされました。他の兄弟たちは優等生・まとも・普通。譲二さんだけはめっちゃヤンチャ。

ですが、東京の名門麻布中学・進学率抜群の中学の入学試験に合格した。自分の前に座っている人の答案を、ほぼ100%カンニングしたから。後ろに座ってて、どうやってカンニングするの? 「素人には分からん」とか言ってました。カンニングされた人、橋本龍太郎(はしもと りゅうたろう/1937-2006)ですよ。後の日本の総理大臣。橋本龍太郎と安倍譲二は中学時代の同級生。3年間カンニングで通します。

そして慶応高校に行くけど、16歳にして正式にヤクザに入るんです。新宿中心に勢力を張っていた安藤組という伝説のヤクザ集団。高校生をやりながら本物の暴力団に入って。高校ではボクシング部キャプテンでブイブイ言わせながら。

ある時、早稲田の大学生 16 人、こっちは 3 人。因縁つけられたという事で、3 人で 16 人を袋叩きにしてしまい、それが大きな問題になって、警察に引っ張って行かれ、詳しく調べられた結果、現役ヤクザの正当な構成員というのが分かって退学。

そこから奈落の底。高校を 6 つ変わるんです。最終的には定時制に行っ、そこから色んな事をやるけど、ヤクザだからいっぱい犯罪する。日本の中だけで前科 14 犯。海外でも犯罪起こして前科 3 犯。日本でも外国でも刑務所に入り、その期間を全部合計したら約 8 年以上。段々やさぐれて、破れかぶれ。

だけど、元来地頭がいいというか、14 歳でシェークスピア全集を全部読んだそうです。

刑務所で一番辛かったのは活字がない事ですって。読みたい。分かるわ。字、読みたい。本、読みたい。で、彼はどこの刑務所でも、木工工場です仕事します。工場の本棚にインテリア雑誌が第 1 号からバックナンバー揃ってズラッと並んでいる。それは『室内』という雑誌で殆ど写真。インテリアの家具だから。

編集長が巻末に一声(いっせい)書いている文章が洒落てるのよ。山本夏彦(やまもと なつひこ/1915-2002)さん。辛口エッセイスト。「税務署に行ったら、税金は納めるものだと言うけど、私はくれてやるものだと思っている。くれてやったら、忘れてやるものだと思っている」みたいに書くような人。

山本夏彦と山本七平(やまもと しちへい/1921-1991)の対談本は、読み出したら止まらない。メチャクチャ面白くて。知性が絡み合うと、こんな対話になるのかと。自分もそこにいて、一緒に喋っているような気分にしてくれる本がたくさんあります。

安倍さんは山本夏彦さんの文章に惚れてファンレターを書きました。「僕も山本さんみたいな文筆家になりたい。ヤクザはもう足洗う」と言って、出所後はエッセイや小説、色んな作品を書くのですが、前科 14 犯だから、どこの出版社も相手にしてくれない。

それで山本夏彦さんに見せたら「お前、いいもん持ってるなあ。『室内』に連載エッセイ書いてみないか?」「やらせて下さい!」刑務所で会った人・あった事を織り交ぜながら書いて、それを単行本にしたのが『堀の中の懲りない面々』ドラマにも映画にもなったでしょ。これが爆発的に売れました。

山本夏彦は彼にとって命の恩人です。

安倍謙二さんには尊敬している作家が 1 人いました。山口瞳(やまぐち ひとみ/1926-1995)さん。

直木賞作家で、麻布中学の先輩です。山口さんの文章がお洒落で、憧れて、好きでたまらない。

山口さんはすごく潔癖で真面目な方なので、暴力団時代の事を面白おかしく武勇伝みたいに書いている事に対して「こんなの文学じゃない。彼がやった事で泣いている人たちがたくさんいるじゃないか。それを棚に上げて、こんな文章書いて飯を食っている。それは私の美学に反する」と言って、事ある毎に否定するんです。

尊敬している人から全否定されたら、悲しいだけじゃなくて、それを聞いたり、人づてに聞いてしまった時、つい「そうか…」ではなく「うるさいわ」みたいな。売り言葉に買い言葉みたいな。それで、言い返してしまうような事を書いたんかな? 言ったんかな? それをまた、山口さんに告げ口する人いますねん。いやらしいわ、ほんまに。こうやって人間関係は、いよいよ複雑になって行くんですよ。

それで山口さんの耳に入って、山口さんが激怒している事が分かった時、安倍さんは「しまった! そんなつもりなかった…」とすぐに菓子折り持って、山口さんの自宅まで謝罪に行っ「赦してください!」出て来なかったそうです。山口さんは家の中にいて門前払い。

それから毎年お盆と暮れの年に 2 回、山口さんの好物を取り寄せて、家の玄関まで行って「反省してま

す」と出て来るまで待ちます。しかし、とうとう最後まで出て来る事なく亡くなりました。

山口さんが亡くなった時、作家仲間が集まって『山口瞳追悼文集』を出しました。彼と交流のあった作家たちが秘話・エピソードを書いたのですが、その中に安倍譲二の文章があります。たくさん色んなのがありますが、安倍譲二のが秀逸です。別格。尊敬と憧れの気持ちが行間からこみ上げて来るといふか、放たれて来るといふか、その熱い思いが伝わって来る文章。

安倍さんがある人に言っています。「あの人には認めて欲しかった！ あの人に認めてもらったら、100万の読者に認められるより良かった。でも、やった事は消えないもんなあ…。」

潔癖な山口さんは、過去にしでかした事は「もう昔の事だから水に流す」というわけには行かなかった。今更悔やんでも過去は消えないけど、潔癖な山口さんの心に受け入れてもらうためには、罪の過去・ブラックな過去は消されていなければならなかった。「でも、やってしまった事を消すのは誰にも出来ないもんなあ…」というのが、安倍譲二の悲痛な叫びだったんです。

山口さんの潔癖と、神聖なる神様の聖さは比べものにならないですよ。その神様の前に、私たちが罪のまま「ごめんなさい。」—「なかった事にしてやるよ」というわけにはいかない。

そこで神は、過去にどんなに深くて・醜くて・大きな罪があったとしても、その罪を完全に赦し、消し去り、清める方法を、旧約聖書全体で提示していたんです。それが、**血を流す**という事でした。

ヘブル 9:22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。

血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。

逆に言うなら、「誰かが私のために血を流してくださるのなら、罪の赦しが与えられるのです。」

旧約聖書では、**罪の赦し**のために、ひな型的に血を流したのは全部動物です。牛・羊・山羊という動物が神殿で屠殺され、血が流されて、その血によって「いけにえを連れて来た人たちの罪が赦された」と言ったのですが、これは教育だったんですね。

やがて、私たちの罪を完全に赦す方が神によって備えられる。この方こそはイエス・キリストです。

全く罪のない方イエス・キリストには特殊なタイトルが付いていました。どんな名前でしょうか？

「**世の罪を取り除く神の子羊**」。

イエスこそは、私の罪を取り除くために、神によってこの世界に送られた**神の子羊**です。

この方が十字架にかかって血を流してくださったので、神はその血を見て「**全ての罪はこの血によって償われた**」と判定してくださるのです。

なぜキリストを信じないと罪は赦されないのか？ 神の原則は、**血を流すことがなければ、罪の赦しはない**からです。だからこそ、キリストは全く罪のないお方なのに、十字架にかかって、血を流して死んでくださった。死んでくださっただけでなく、墓に葬られて、死後3日目によみがえってくださった。つまり、今生きておられるんです。

死んだきりだったら、2つ問題がありますね。

1つは、イエス・キリストは嘘つきになります。十字架にかかる前、「わたしは十字架にかかった後、3日目によみがえります」と繰り返し約束されていたから。その約束を守れなかったとなると、嘘つきじゃないですか。しかし、人には出来ない「よみがえる」という約束を果たす事によって、この方は紛れもなく神だという事が分かりますよね。同時に、私たちの心に平安が来ます。

もし自分のために犠牲になって死んだままなら、それで赦されたとしても、ずっと重くないですか？
「イエスを死なせた状態のまま、私が元気で、喜んで、平安って、そんな虫のいい話…。」

サバイバーズギルト (Survivor's guilt)。大きな災害で生き残った人たちが、生き残った事によって罪悪感を感じる。「何で私が生き残ったのか。」「他の人より先に逃げた。」「他の人の犠牲で私が…。」
責められて、生き残った事を喜ぶよりも苦しむ。
キリストが死んだままなら、それに似た心境になりませんか？ まともな神経だったら。
死んだきりじゃない。死んで3日目によみがえってくださった方。

山口さんがどうしても阿部さんを受け入れる事が出来なかったのは、安倍さんの本を読むたびに、過去にした事が記憶に残っていて思い起こされ、その記憶を消す事が出来なくて「これは駄目。」

だけど、この血は清めます。もっと言ったら消すんです。

ヘブル 10:17 「わたしは、もはや 彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われるからです。

イエス・キリストを信じ受け入れた者の罪と不法も、キリストの血によって隠されているので、神はもはや思い起こさない。もはや知らない。実に恵み深い健忘症というか。
「神よ、私はあんな罪を…。」「どれ?」「10年前の〇月〇日にあんな事を…。」「知らないんだが。」
神は、覚えていて赦してるんじゃないんです。消えてるのよ。

つまり、キリストを受け入れた人は、1度も罪を犯した事がない者であるかのように歓迎されて迎え入れられるという事。だから喜んで、飛びついて行く事ができるんですよ。

語られているそのままの意味ではなく、適応として見たいと思います。これは、王様が息子の結婚の披露宴を催すのですが、その披露宴をたとえに、キリストが救いの招きについて語っているところです。
あくまでも適応ですよ。

マタイ 22:10 しもべたちは通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めたので、披露宴は客でいっぱいになった。

天国というか、神様が治める世界はどんな国だと思いますか？ この世界には独裁国家があります。独裁国家の性質は独裁者の性質を反映しています。金正恩が支配する北朝鮮は金正恩みたいな国です。習近平が支配している中華人民共和国は習近平みたいな国。

神が支配する国は神のご性質を反映している国。それを披露宴で表しているんです。披露宴は楽しいで。普段食べられへんご馳走出て来て、花婿と花嫁がいて、皆きれいな服着てる。音楽や出し物もある。この時間だけは別世界時間。ウキウキわくわく楽しい。イエスの国はそんな国。ええなあ。
「そんなに楽しい国をわたしは準備しているから、さあ来なさい」と誰を招いたかと言ったら、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めた。ここに望みがありますね。良い人でも悪い人でもオッケー。悪い人でも悪い人でもオッケー。「とにかく来なさい。ガランとしてたら嫌やから来いよ!」で、披露宴会場がいっぱいになった。

マタイ 22:11-14 王が客たちを見ようとして入って来ると、そこに婚礼の礼服を着ていない人が一人いた。王はその人に言った。「友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。」

しかし、彼は黙っていた。そこで、王は召使いたちに言った。
「この男の手足を縛って、外の暗闇に放り出せ。この男はそこで泣いて歯ざしりすることになる。」
招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないのです。

王が客たちを見ようとして入って来る。この王様は楽しい会が目的じゃなくて、楽しい会に来てくれたお客さんと交わる事が目的です。良く来てくれたなど。

「どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。」ドレスコード。一流のホテルやレストランにはジーパン・Tシャツでは入れません。スーツ・ドレスでないと駄目。「周りのお客さんたちの気持ちを台無しにするような格好はやめてください」という事ですね。
ここにもドレスコードがあったんです。婚礼の礼服を着ないと入れない。
王が「どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか」と聞いたら、しかし、彼は黙っていた。理由を言わない。不思議だと思いませんか？

神が治める披露宴のような素晴らしい祝福の国は、婚礼の礼服を着る事が入場資格なんです。
このたとえを見ると、「この人、お金なくて礼服買われへんかったかも知れへん。そんな事、言うてやるのは無慈悲や」と思うかもしれませんが、当時の習慣では、婚礼の礼服も披露宴の主催者が準備します。今は、出席する人が自前でタキシードやドレスを買うでしょ。結婚式招かれて「ドレスも用意しました」って、そんな奴はおらん。
この当時は、王が披露宴を主催する時は出席者の礼服も王が用意して、既に吊るされています。
皆、王が提供してくれた物を羽織って入るのですが、それを拒んで、そこに入ろうとしている人たちの事を言っているんです。

ところで、どんなボロの格好をしてても、婚礼の礼服に被われたら、下に着ている物は見えないから美しく見える。同じように、イエス・キリストを自分の救い主として信じるという事は、「イエス・キリストを身にまとう。キリストによって、私の罪が全部覆われる。隠される。カバーされる」という意味です。

皆さんは、この婚礼の礼服を着ましたか？ これを着るという事は、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れるという事です。別の言葉で言い換えると、イエスの血の注ぎを受ける。
イエスの血が流された事によって、私の罪が赦されたのだという事を信じる。

最後に1つお話して終えたいと思います。私たちは毎週日曜日の午前中に聖餐式(せいさんしき)をやっています。クリスチャンにとって、一番大事な時間ですね。
最後の晩餐の時にイエス・キリストが命じられた通りにパンを回して、一人ひとりがそれを裂いて食べ、キリストの体が引き裂かれて、私のために贖いの代価となった事を味わい、同時にぶどう酒を回す。

ぶどう酒はキリストの血が流された事を思い起こすため。本当の血じゃないですよ。
本当の血になると教えている教会がありますよね。カトリック教会。
カトリック教会では、口の中に入れた瞬間に本当の血液になると教えていますが、それは違います。
何やったら、もう1回出してみたら？ぶどう酒のままやから。

これは型です。小さな杯に入れて回すのですが、ある時、私がちょっと立ってて、家内が私の分も取ってくれたんです。そしたら何の弾みか、そそっかしいからか知りませんが、テーブル付きの椅子で、手が当たって、持っていたぶどう酒(*ぶどうジュース)を私の聖書にぶわーっと。

開いていた箇所がさっきのヘブル9章で、血の注ぎかけがなければ罪の赦しがないと。そこを読み上げたので開いてたんです。

「あっ」と言ったから「何?」と振り返ったら、私の新品の聖書にぶわーっ。赤いぶどう酒。他のクリスチャンたちは、目をつぶって祈っているはずなのに「ぶふっ」。何で見えんねん。薄目で見たな。拭いたけど、波打ってるんですよ、聖書が。だから開ける時、そこばかり開けるんです。そこが膨らんでいるから。それは第3版だったのですが、今は2017版なのでキレイです。ぶどう酒回ってくる時、家内からちょっと離して。

でも、ほぼ白いページの聖書に赤いぶどう酒がかかった時、私はどこに注目したかというところ、かかっていない部分ではなく赤い部分を見ました。だって、白と赤では赤の方が目立ちますやん。ぶどう酒に注目したのです。赤は目立つから。

神は、イエスの血の注ぎかけを信仰によって受け入れた人を見る時、その人ではなく、イエスの血・イエスによって流されたいのち・イエスご自身のいのちを、その人の中に見出されるのです。「神が私を見る時、キリストを通してご覧になっている」という事は、神に近づく上で、何という勇気を与えられる事でしょうか。

どんなに臆病な人・どんなに人に緊張する人・大勢の人の前では黙りこくっている人でも、あなたを歓迎して、大胆に近づくための準備を全部備えてくださっている父なる神様には、イエス・キリストを通して近づけるのではありませんか?

キリストを信じる事が、神とキリストにある親子関係に入るといふ事なんですね。その時、私たちは罪からも解放され、死の恐れからも逃れる事が出来るのです。是非キリストを今日こそ信じて、ご自分の救い主となさってください。心からお勧めしたいと思います。



- * 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- * ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約14分)も是非どうぞ。YouTube もあります。
- * YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」(約10分)もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi